

# 固有値と対角化

Jacques Garrigue, 2017 年 12 月 15 日

## 対角化

**同値な行列** 同じ線形変換を表現する行列を同値という。具体的には、 $A$  と  $B$  を  $n$  次正方行列とすると、ある正則行列  $P$  により  $B = P^{-1}AP$  ならば  $A$  と  $B$  が同値である。

**行列の対角化**  $A$  と同値な対角行列  $B = P^{-1}AP$  を求めることを対角化という。  $P$  が実数行列なら  $A$  が実数上対角化可能で、  $P$  が複素数行列なら  $A$  が複素数上対角化可能という。

一般的には、全ての行列が対角化可能ではない。

**例題**  $A = \begin{bmatrix} 8 & -10 \\ 5 & -7 \end{bmatrix}$ ,  $P = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 1 & 1 \end{bmatrix}$  のとき、  $P^{-1}AP$  が対角行列であることを確認し、これを用いて  $A^n$  を計算せよ。

**定理 5.4.1**  $T$  がベクトル空間  $V$  の線形変換で、  $\lambda_1, \dots, \lambda_r$  はその固有値とすると、

$$\sum_{i=1}^r \dim(W(\lambda_i; T)) \leq \dim(V)$$

**証明** 固有値の Vandermonde 行列式が 0 でないことを用いて、相異なる固有空間のベクトルの非自明な 1 次関係が存在しないことを証明する。

**定理 5.4.2**  $A$  が  $n$  次の実数正方行列で、  $A$  の固有値を  $\lambda_1, \dots, \lambda_r$  とする。  $A$  が  $\mathbf{R}$  上対角化される必要十分条件は

$$\sum_{i=1}^r \dim(W(\lambda_i; T)) = n$$

**証明 (必要)**  $B = P^{-1}AP$  で  $T_A$  が対角化可能とする。そのときに  $P$  の各列ベクトルが  $T_A$  の固有ベクトルであり、それぞれの固有値に分類できる。  $P$  は正則行列なので、その列ベクトルが 1 次独立で、各固有空間の次元の和が  $n$  になる。

(十分)  $\sum_{i=1}^r \dim(W(\lambda_i; T_A)) = n$  とすると、各固有空間の基を集めると、  $n$  個のベクトル  $\vec{u}_1, \dots, \vec{u}_n$  が得られる。定理 5.4.1 の証明で分かるように、その  $n$  個のベクトルが 1 次独立で、  $\mathbf{R}^n$  の基をなす。  $T_A$  の  $\{\vec{u}_1, \dots, \vec{u}_n\}$  に関する表現行列  $B$  が対角行列で、  $B = U^{-1}AU$  となる。

**系 5.4.1**  $A$  が  $n$  次の実数正方行列で、  $A$  の相異なる固有値が  $n$  個あれば、  $A$  が対角化可能。

**証明** 各固有空間の次元が 1 以上なので、前の 2 つの定理より。

**例題**  $A = \begin{bmatrix} 7 & 12 & 0 \\ -2 & -3 & 0 \\ 2 & 4 & 1 \end{bmatrix}$  を対角化せよ。

例題  $A = \begin{bmatrix} -1 & 0 & -2 \\ 3 & 2 & 2 \\ 1 & -1 & 3 \end{bmatrix}$  が対角化可能かどうかを調べよ.

複素数体上の対角化  $n$  次の実数正方行列  $A$  が  $\mathbf{R}$  上で対角化ができなくても、複素数体  $\mathbf{C}$  で対角化できる可能性もある. そのときの対角化可能性の条件は実数の場合と同じで,

$$A \text{ が } \mathbf{C} \text{ 上で対角化できる} \Leftrightarrow \sum_{i=1}^r \dim(W(\lambda_i; T_A)) = n$$

対角化の計算も同様にできる.

## 宿題の回答

問題 5.3.3 (1)

$$\begin{aligned} g_{T_A}(t) &= \left| tE - \begin{bmatrix} 5 & -4 & -2 \\ 6 & -5 & -2 \\ 3 & -3 & 2 \end{bmatrix} \right| = \begin{vmatrix} t-5 & 4 & 2 \\ -6 & t+5 & 2 \\ -3 & 3 & t-2 \end{vmatrix} \\ &= 2 \begin{vmatrix} -6 & t+5 \\ -3 & 3 \end{vmatrix} - 2 \begin{vmatrix} t-5 & 4 \\ -3 & 3 \end{vmatrix} + (t-2) \begin{vmatrix} t-5 & 4 \\ -6 & t+5 \end{vmatrix} \\ &= 2(3t-3) - 2(3t-3) + (t-2)(t^2-1) = (t-2)(t-1)(t+1) \end{aligned}$$

$$\lambda = -1, 1, 2$$

$$\begin{aligned} \vec{x} \in W(-1; T_A) &\Leftrightarrow \begin{bmatrix} 6 & -4 & -2 \\ 6 & -4 & -2 \\ 3 & -3 & 3 \end{bmatrix} \vec{x} = \vec{0} \Leftrightarrow \vec{x} = c \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix} \\ \vec{x} \in W(1; T_A) &\Leftrightarrow \begin{bmatrix} 4 & -4 & -2 \\ 6 & -6 & -2 \\ 3 & -3 & 1 \end{bmatrix} \vec{x} = \vec{0} \Leftrightarrow \vec{x} = c \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} \\ \vec{x} \in W(2; T_A) &\Leftrightarrow \begin{bmatrix} 3 & -4 & -2 \\ 6 & -7 & -2 \\ 3 & -3 & 0 \end{bmatrix} \vec{x} = \vec{0} \Leftrightarrow \begin{bmatrix} 1 & -1 & 0 \\ 0 & 1 & 2 \\ 0 & 1 & 2 \end{bmatrix} \vec{x} = \vec{0} \Leftrightarrow \vec{x} = c \begin{bmatrix} -2 \\ -2 \\ 1 \end{bmatrix} \end{aligned}$$

(2)

$$\begin{aligned} g_{T_A}(t) &= \left| tE - \begin{bmatrix} 7 & 12 & 0 \\ -2 & -3 & 0 \\ 2 & 4 & 1 \end{bmatrix} \right| = \begin{vmatrix} t-7 & -12 & 0 \\ 2 & t+3 & 0 \\ -2 & -4 & t-1 \end{vmatrix} = (t-1) \begin{vmatrix} t-7 & -12 \\ 2 & t+3 \end{vmatrix} \\ &= (t-1)(t^2-4t+3) = (t-1)(t-1)(t-3) \end{aligned}$$

$$\lambda = 1, 3$$

$$\begin{aligned} \vec{x} \in W(1; T_A) &\Leftrightarrow \begin{bmatrix} 6 & 12 & 0 \\ -2 & -4 & 0 \\ 2 & 4 & 0 \end{bmatrix} \vec{x} = \vec{0} \Leftrightarrow \vec{x} = c \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 0 \end{bmatrix} + d \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \\ \vec{x} \in W(3; T_A) &\Leftrightarrow \begin{bmatrix} 4 & 12 & 0 \\ -2 & -6 & 0 \\ 2 & 4 & -2 \end{bmatrix} \vec{x} = \vec{0} \Leftrightarrow \vec{x} = c \begin{bmatrix} 3 \\ -1 \\ 1 \end{bmatrix} \end{aligned}$$